



大震災の教訓を活かす①



阪神・淡路大震災は、経験していませんが、東日本大震災や熊本地震の被災地を間近に見て、普段何気なく使っている水の大切さをあらためて実感しました。近い将来、南海トラフ地震が起きると言われているので、水の備蓄など日頃から最低限自分のできることはやっておきたいです。



Q 大規模な災害が起こったとき、尼崎市外と連携して水を届ける取組はあるの？

A 尼崎市だけで継続して水を届けることが困難な場合は、兵庫県や他の事業者等と連携して応急給水を行います。そのため他の事業者等と連携して定期的に訓練を行っています。また東日本大震災や熊本地震のように市外の事業者が大災害により被災した場合は、要請に応じて尼崎市からも職員を派遣して対応しています。



平成7年(1995)～

阪神・淡路大震災で市内全域の50%が断水。多くの支援、協力で復旧と応急給水を進めました。



平成7年(1995)1月17日未明、兵庫県淡路島北端を震源とした兵庫県南部地震が発生しました。激甚被害地域の東端に位置する尼崎市も震度6を記録し、死者49人、負傷者7145人、全壊5688棟・1万1034世帯、半壊3万6002棟・5万1540世帯と大きな被害を引き起こしました。

尼崎市内の水道管の被害は1万3454件(道路上1759件、宅地内1万1695件)で、市内全域の約50%が断水しました。これだけの断水を水道局職員と修繕工事委託業者4社では対応できなかつたため、市内の公認業者や兵庫県、大阪府の応援も得られ、体制整備に努めながら懸命な復旧作業に取り組み



ました。その結果、水圧は低いものの地震発生から2週間後の1月31日には市内全域に水が行きわたるようになりました。

断水している間の水の供給を確保すべく、給水車などを使って応急給水を進めました。しかし、水道局や協力してくれた市内業者だけでは資機材や人手が足りなかつたため、兵庫県に支援を要請し、地震の翌日の18日には兵庫県から要請を受けた奈良県下、和歌山県下の自治体や西播磨水道企業団などの給水車が到着し、給水拠点を増やし体制を整備していきました。

その後、自衛隊や中国地方建設局(現・中国地方整備局)などの支援を得て、応急給水にあたりました。応急給水のさなか、給水拠点から高齢者世帯などの家庭へ携行缶などにより水を運搬するなどの作業に多くのボランティアの協力がありました。



大震災の教訓を活かす②



5



2



6



3



4

- 1: 地震に強い耐震管
- 2: 耐震性緊急貯水槽設置工事の様子
- 3: 応急給水袋
- 4: 災害時に活躍する給水車
- 5: 漏水した管を復旧する訓練
- 6: 耐震性緊急貯水槽の見学会

また、簡易浄水装置、加圧給水車などの応急給水のための機器や、非常用飲料水袋、災害用備蓄水などを準備しています。さらに、災害が起こった際に迅速に対応できるように、応急施設復旧訓練や応急給水の機器を使用した訓練などを毎年行っています。

阪神・淡路大震災以降、日本各地で甚大な被害をもたらす大災害が発生しています。尼崎市水道局では、平成23年（2011）の東日本大震災、平成26年（2014）の丹波豪雨、平成28年（2016）の熊本地震の被災地へ職員を派遣し、大震災の経験を活かした支援を行っています。

災害が発生して一番困るのは水の確保です。予期せぬ災害に備えて、市民の皆様と共に万全の準備を進めていきます。



神崎浄水場配水池の耐震化工事の様子

災害時の他県からの応援は、大変ありがたいです。私たちも、万一、どこかで水に困っているところがあれば、応援に向かいたと思います。



災害に備えた対策を進めるとともに、各地の被災地支援にも尽力しています。

阪神・淡路大震災は、水道が誕生して以来の大きな被害をもたらしました。その教訓を活かすべく、地震など大災害に備えた対策を進めています。まず、水道管と水道管をつなぐ部分（継手）に地震でも外れない形式のものを採用して水道管の耐震性を高める工事を計画的に進めています。基幹管路と重要施設（基幹病院や透析実施医療機関、避難所など）へ至る配水管の耐震化を最優先で実施しています。

水道管の耐震化とともに、災害時の飲料水を確保するための緊急貯水槽の設置も進めています。貯水槽1基で約1万人に3日分以上の飲料水（1人1日3リットル）を供給することが可能で、平成30年度までに7基設置しました。



1

水道水 1m³あたりの値段 (1,000ℓ)

108円

お風呂5杯分、500mlペットボトルでは0.06円

水道管の総延長

1,028,784.1m

尼崎～東京間を往復する距離

尼崎市民が1日に使う水の量

338ℓ

お風呂一杯 約200ℓ

データで見る 尼崎水道水

大正7年(1918)10月の創設時、尼崎水道の給水人口は11,753人、年間給水量は約300,000m³でした。100年後の現在、給水人口は約38倍の450,765人、年間配水量は約185倍の約55,633,000m³。データからも水道の現状が分かります。(H28年度データ)

水道料金100円あたりの使い道

- 水の購入費用 50円
- 一般管理の費用 19円
- 水を作って送り届ける費用 8円
- 施設にかかる費用 9円
- 検針や料金を徴収する費用 14円

1年間の給水受付件数 (給水の開始・中止等)

47,211件

1日あたり130件

尼崎市が1日に作れる水の量

329,673m³

小学校のプール約1000杯分 (329,673,000ℓ)

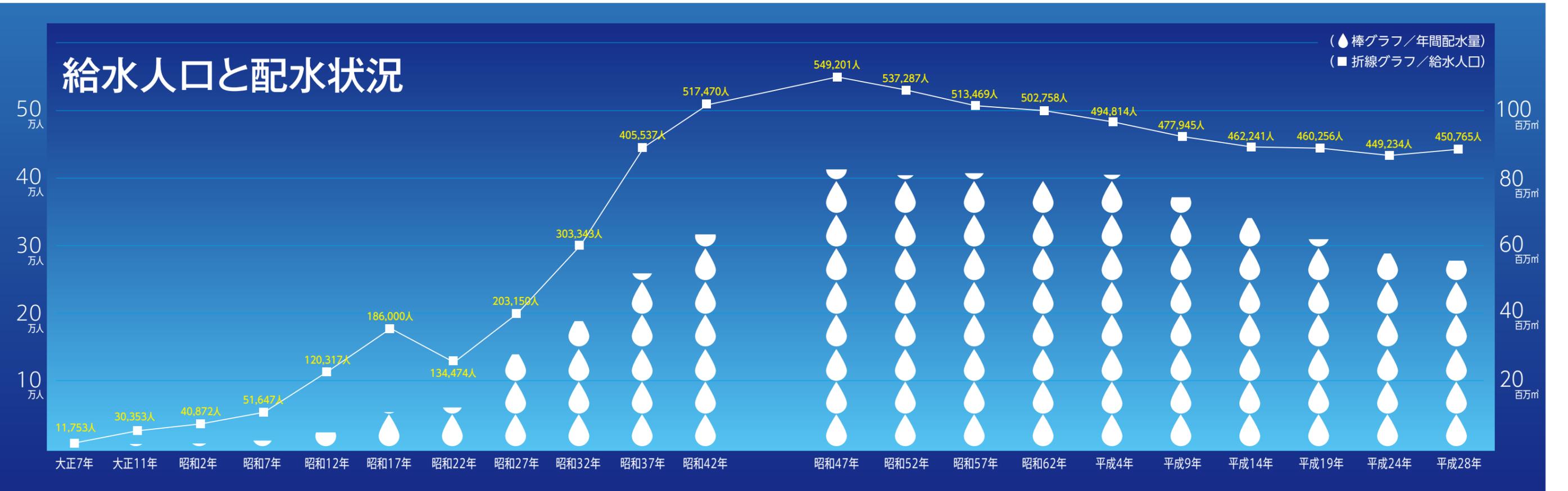
尼崎市に1年間に送っている水量

55,633,824m³

京セラドーム約45杯分 (55,633,824,000ℓ)

尼崎市で水を使っている人数

450,765人





【昔、家庭向けに配布していた水道冊子】

尼崎市の命の水を 次の世代へつなげる

尼崎市の水道は、大正7年10月1日に通水を開始して、平成30年で100周年を迎えました。通水開始当時の給水人口は約1万人でしたが、現在では約45万人の人たち安全・安心な水道水の供給を行っております。「じゃ口をひねれば当たり前」の水道ですが、そこに至るまでには、先人の方々の多くの努力や苦勞がありました。

尼崎に水道ができる以前は、飲用に適した水がわずかで、伝染病の危険にさらされていました。大正5年の市制施行後には、念願であった水道の布設がスタートし、費用や資材調達に悩まされたものの、わずかな遅れで尼崎市の水道が完成しました。

その後、市内の水道は急激に普及し、工業や産業を支えてきましたが、水源としていた神崎川が工場排水や生活排水で汚染されたため、昭和3年に兵庫県下で初めて淀川（大阪市）に水源を変更しました。これにより水質の改善だけでなく、豊富な流量を持つ水源を確保し、安定した水道水の供給ができるようになりました。

昭和40年代の半ばには、琵琶湖の水質悪化によりカビ臭が発生したことから神崎浄水場に全国初のオゾン処理設備を設置し、さらに平成10年には高度浄水処理施設を建設し、「高度浄水処理水」をお届けできるようになりました。

市民のライフラインとして、水道は生活に必要な不可欠なものとなりましたが、平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、市内全域の50%が断水した経験から、災害時にも安定的に水道水を供給していくために地震に強い水道管の布設や施設の更新など、災害への備えを強化しています。

現在、高度成長期に整備してきた水道施設の更新をはじめ、水需要減少への対応や大規模災害への備えなど新たに様々な課題が生じています。その克服のためには、今後の水道事業について利用者のみなさまとともに考え、取り組んでいくことが大切だと思っています。これからも変わらず、安全でおいしい水道水を安定的にみなさまへお届けし、尼崎市の水道を次の世代につなげるべく努力して参りますので、水道事業に対するご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。



【水道水のボトル缶】
【通水100周年記念デザインのボトル缶】

【通水100周年記念啓発グッズ】

【街頭キャンペーン・実験教室など水道にふれてもらうイベントの開催】



【水道事業パンフレット】



【神崎浄水場の解説クリアファイル】

【啓発ポスター】

【阪神間水道事業体広報連携企画での広報】



水道がつなぐみんなの笑顔

毎日、いつでもじゃ口から出てくる水。生活に、産業に欠かせない水道。市民のみなさん、事業者のみなさんに、水道水へのメッセージをいただきました。これまでの100年分の笑顔大切に、次の100年もまた、尼崎の水道はみなさんの笑顔をつないでいきます。



次世代を担う子どもたちの

水の絵画・川柳展

通水100周年を機会に、子どもたちに水道について興味を持ってもらい、水道への理解・関心を深めてもらうため、「わたしたちと水道」もしくは「くらしの中の水道」をテーマに平成29年7月から9月にかけて、小学生には絵画を中学生には川柳を募集しました。
最優秀賞には、絵画部門で園田北小学校3年生の山本紗由樹さんが、川柳部門で小田中学校1年生の高瀬愛理さんの作品がそれぞれ選ばれました。
選ばれた絵画と川柳は、ボトル缶の通水100周年記念ラベルのデザインになります。



【立花西小 前原さん】



【武庫東小 道下さん】



【杭瀬小 玉井さん】



【百合学院 平野さん】



【武庫東小 一島さん】



【武庫南小 上中さん】



【武庫小 高井さん】



【難波の梅小 小島さん】



【塚口小 斉藤さん】



【立花西小 加藤さん】



【大庄小 坂元さん】



【杭瀬小 寺谷さん】



【難波の梅小 福原さん】



【武庫南小 上中さん】



【武庫小 小谷さん】



【園和小 岸さん】



【武庫の里小 松田さん】



【立花西小 瀧川さん】



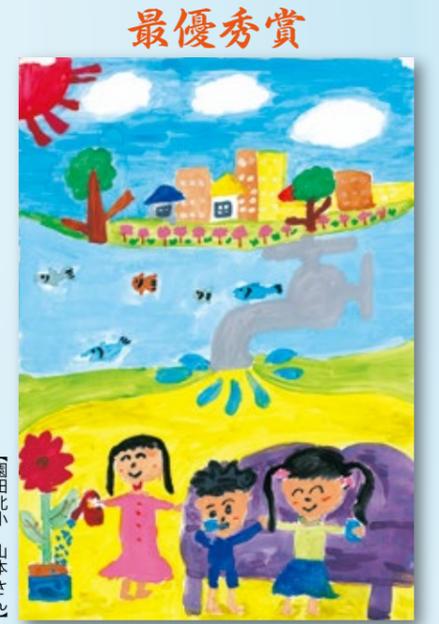
【園田小 山畑さん】



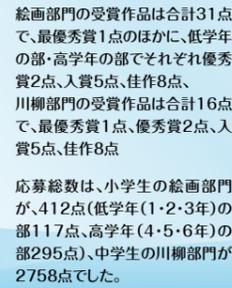
【尼崎北小 石山さん】



【下坂部小 関口さん】



【園田北小 山本さん】



【立花西小 小川さん】



【大庄小 高木さん】



【上坂部小 中原さん】



【立花西小 福井さん】



【武庫東小 矢野さん】



【園和小 小丸さん】



【武庫の里小 原さん】



【塚口小 斉藤さん】



【塚口小 荏司さん】



絵画部門の受賞作品は合計31点で、最優秀賞1点のほかに、低学年の部・高学年の部でそれぞれ優秀賞2点、入賞5点、佳作8点、川柳部門の受賞作品は合計16点で、最優秀賞1点、優秀賞2点、入賞5点、佳作8点
応募総数は、小学生の絵画部門が、412点(低学年(1・2・3年)の部117点、高学年(4・5・6年)の部295点)、中学生の川柳部門が2758点でした。

最優秀賞

水の川柳

最優秀賞(1点)

透き通る
自慢の水を この先も
【小田中 高瀬さん】

優秀賞(2点)

受け継いだ
暮らしの柱 尼の水
【武庫東中 樋口さん】

水筒の
ピンチヒッター めちやうまい
【百合学院 高田さん】

入賞(5点)

ひねり出す
暮らしの知恵と あまの水
【武庫東中 川上さん】

いってきます
水のおかげで さわやかに
【武庫東中 中嶋さん】

あまの水は
素材を生かす かくし味
【百合学院 東村さん】

みずキレイ
あたりまえでは ありまへん
【百合学院 徳山さん】

寝る前に
ぐっと一飲み 尼の水
【大庄中 高橋さん】

佳作(8点)

普段から
私のささえ 尼の水
【大成中 稲垣さん】

絶やさずに
大事に飲もう あまの水
【武庫東中 高橋さん】

水と生き
のどをうるおす 尼の恵み
【武庫東中 小池さん】

水道水
家事を手伝う パートナー
【武庫東中 板敷さん】

飲むたびに
ほっとひといき 尼の水
【武庫東中 三代さん】

水飲める
その幸せを 噛み締めて
【武庫東中 山本さん】

水飲んで
町にあふれる 笑顔かな
【園田東中 東さん】

人・花・街
未来を育む 尼の水
【園田東中 赤井さん】